



視 察 研 修 等 報 告 書

令和 5 年 5 月 26 日

坂井市議会

議 長 辻 人 志 殿

会 派 名 創 政 会
報 告 者 佐 藤 岳 之

1. 日 時 令和5年4月27日(木)～28日(金)
2. 視察研修先
 - ①ふくいアンテナショップ291
 - ②地球緑化センター
 - ③坂井市アンテナショップ
3. 視察研修内容
 - ①坂井市アンテナショップの開業に伴い、現地を視察し、新幹線開業の関東圏における坂井市の観光戦略を探る。また福井県のアンテナショップにおける、坂井市のアンテナショップとの連携等についても現地にて県担当者から話を伺う。
 - ②地球緑化センターにおいて、現在来年度4月から当市で活動する隊員を募集している緑のふるさと協力隊についてを伺う。
 - ③坂井市アンテナショップのオープン初日を視察する。
4. 参加者 伊藤聖一 佐藤寛治 戸板 進 前川 徹 山田秀樹 岡部恭典
鍋嶋邦広 廣瀬陽子 林 豊夏 佐藤 岳之
5. 内容詳細 事前に質問事項を送付し、詳細について説明を受ける。
 - ①来春の北陸新幹線福井・敦賀開業を控えた福井県は2月24日にアンテナショップ「ふくい食の國291」を銀座に新装オープンした。「ふくいを買って、味わい、旅する」をキャッチフレーズに県内企業の販路とふくいファンの拡大を目指すとのこと。
 - ②緑のふるさと協力隊は、過疎化・少子化に悩みながらも地域を元気にしたい地方自治体と、農山村での暮らしに関心をもつ若者をつなげるプログラムである。昨年までは、緑のふるさと協力隊を募集する自治体よりも参加を希望する人が多かったが、

本年度は、希望する自治体より参加者が少ない状況になっている。

- ③ 4月28日オープン初日、森沢品川区長、高橋愛さんなども訪れにぎわいを見せていた。物販、観光案内、イートインを展開し、また坂井市コンシェルジュを配置している。坂井市の魅力を伝える拠点となることを期待。

6. 所見・感想等

(鍋嶋邦広)

坂井市アンテナショップ視察・・・立地的に商売を行う場所としては、人の流れ含め、かなり厳しいロケーションであり、サイン関係含め目立たない店舗設計である。地元でも現地でも人気となるようなヒット商品の開発が急務だと感じた。

福井県アンテナショップ（銀座）視察・・・銀座の中でもアンテナショップが多く出店しているエリアで、相乗効果が期待できるが、反面他県のアンテナショップとの比較もされ、特に福井自慢の生鮮品を取り寄せ、差別化を図る工夫も必要ではないかと感じた。

福井県アンテナショップ（青山）視察・・・洗練されたデザインで、新たな顧客獲得に繋がる可能性を感じた。1階スペースでのブランド米のおにぎり販売なども斬新で面白い。また2階のレンタルオフィス・貸し会議室も、クリエイティブなデザインで、福井に興味を持ってくれる人々が集まってくれることを期待したい。

地球緑化センター視察・・・緑のふるさと協力隊募集に関する情報交換、追加の募集依頼も含め訪問。全国で隊員の取り扱いになっている状況とコロナが落ち着き、応募者の環境の変化も伺えた。本市移住定住推進課との連携強化の必要性を感じた。

(戸板進)

坂井市アンテナショップオープン式典視察感想

県内で唯一、市単独のアンテナショップである坂井市アンテナショップが4月28日に以前の店舗から約300m離れた場所に移転し、リニューアルオープンした。

新店舗は、これまでの店舗の約2.5倍に拡張するとともに、新設のイートインコーナーでの坂井市の油揚げやスイーツを販売することは、大いに期待できるが、今後の新メニューの開発が課題であると思う。

店舗スタッフが研修を受け、「坂井市コンシェルジュ」として旅行プランを提案することのことだが、SNSなどを利用し、来年春開業の北陸新幹線敦賀開業に向け坂井市のPR積極的に発信して欲しい。

一方、東急戸越銀座駅から徒歩で新しい店舗へ向かったが、歩く正面から坂井市アンテナショップの看板が無いと、店舗が分かりにくいことと、愛称が「KINENO」に決定したが、我々福井県人としては非常に親みやすい言葉だが、都民の方はどう受け止めてもらえるかが、少し心配な事でもあった。

(前川徹)

旧店舗の2.5倍の広さで、イートインコーナーを新設するなど、戸越銀座という

平日でも1万人が利用するという商店街で再オープンできたことは、北陸新幹線県内開業に向けて坂井市の魅力発信に大いに期待できる。また、店舗スタッフを「坂井市コンシェルジュ」として旅行プランなどを提案するようだが、移住・定住につながるような情報発信や仕組みも今後必要になるのではと感じた。

オープン式典には品川区長も出席していて、品川区との連携協定の強みを感じたとともに、エキサイト大使の高橋愛さんも来店するなど賑わいが創出されていたが、店舗がどこにあるのか目立たない、入り口の階段の段差が高い、といったことも気になった。しながわ観光協会や戸越銀座商店街と連携して、さらにグレードアップしたアンテナショップとして発展していくことを期待したい。

(山田秀樹)

地球緑化センターは、現在の地域おこし協力隊のパイオニアであるとのこと。地域おこし協力隊は与えられたプログラムに沿って勤め、給料が支払われるが、緑のふるさと協力隊は自ら地域の課題を掘り起こし仕事としている。

いずれも移住定住推進に大きく寄与しており、コロナ収束後の活躍に期待したい。

坂井市アンテナショップの移転オープンは地元の方々の受けもよく賑やかなスタートが切られた。商品は分かりやすく並び明るく清潔な店舗となった。人気ブランドの米や酒類が並び、自然の豊かさもPRできており、新幹線開業に向けたアンテナショップとしての役割に期待したい。

福井県アンテナショップでは銀座という地の利が活かされ、相応の客足で賑わっており、購入者も多くいた。隣が山形のアンテナショップで新鮮な野菜、山菜を安く販売し、売れ行きも良かった。物流の課題もあるが福井県産、坂井市産の野菜、果実をPRできればさらに良いのではと感じた。移転前のアンテナショップはコワーキングスペースに生まれ変わり、利用を促し福井との交流人口、関係人口増加に大いに期待したい。参勤交代時代の福井藩所有由来の地であることもPRし、内外に興味を示して頂きたい。

(佐藤寛治)

坂井市アンテナショップが品川区戸越銀座商店街に4月28日にリニューアルオープンした。

式典には森沢品川区長、高橋愛坂井エキサイト大使など多くの来賓者が出席し、開店を祝った。

店では、市産の旬の野菜、越前おろしそば、甘エビなどが販売される。また、店内にイートインコーナーを設置し、油揚げやスイーツを提供するほか旅行プランやふるさと納税の受け付けも担うとしており、情報発信の拠点としても期待できるアンテナショップとなった。

(廣瀬陽子)

◇地球緑化センター

緑のふるさと協力隊を全国の希望する自治体に派遣している。昨年までは、緑のふるさと協力隊を募集する自治体よりも参加を希望する人が多かったが、本年度は、希望する自治体より参加者が少ない状況になっている。地域おこし協力隊の制度もあり、

参加を検討される方に緑のふるさと協力隊と地域おこし協力隊の違いや魅力を募集と合わせ伝えていくことが大切であると感じた。

◇県アンテナショップ

食品だけでなく、伝統工芸品や県内自治体ごとのパンフレットなどがあり、視察中も多くのお客様が来店され販売されていた。アンテナショップは、店舗のサイズが決まっていて展示する場所にも限りがあるため、日本酒や羽二重餅のように商品を決めて場所を確保し、アピールしていく手法は良いと思った。坂井市のアンテナショップも売れ筋を見極め、特化したコーナーを作っていくことが坂井市の魅力やブランドに繋がるのではないかと感じた。

◇坂井市アンテナショップ

オープン初日は多くの方が来場されていた。オープニングイベントの間も、近所の方が買い物が何時からできるのかを確認にくるなど、地元の方にも認知されているように感じた。

戸越銀座商店街は店舗が軒を連ねているため、店舗の外にものぼりや看板などを掲示し、坂井市のアンテナショップであることを PR すること、初めて来られた方にも店舗がわかるような工夫が必要ではないかと感じた

(佐藤岳之)

坂井市アンテナショップのリニューアルオープン初日とあって、たくさんの方が訪れていたため、場所が分かったが、サインなど店舗の存在を示したり、目立たせたりするものが需要であると感じた。イートインもあり、地元の人たちにも愛されるような場所になることを期待したい。KINENO という愛称も福井県民にはおなじみであるが、東京、品川区民の皆様にも早く認知されてほしいと願うところである。

(林豊夏)

緑のふるさと協力隊は、毎年竹田に人を派遣していたが、コロナの影響、色んな団体が増えてきたことにより、今年は竹田に派遣できなかった。竹田の人たちは、協力隊が来ることを、首を長くして待っているのも、途中からでもいいので、人を派遣してほしいと強く要望した。

福井県の青山にあるアンテナショップは、一階には福井県産コシヒカリで作るおにぎりを含め、福井県にまつわるレストランがあり、2階にはレンタルオフィスやワーキングスペースがあった。オフィス街という事もあり、ビジネスマンが多い印象を受けたので、広く認知してもらい、福井県の事を多くの人に知ってもらいたい。ただ利用するだけでなく、福井県の関係人口を増やす方策をこれから実践してほしい。

坂井市のアンテナショップは、品川区との連携の一環として、戸越銀座商店街を盛り上げてほしい。これをきっかけに、坂井市を知ってもらい、観光からふるさと納税など、関係人口が増えていくことを祈る。

(伊藤聖一)

坂井市のアンテナショップには、コンシェルジュを配置しているので、アンテナショップだけに留まらず、都内全体に認知されるような存在になり、坂井市の魅力をしっかり伝えてもらいたい。

(岡部恭典)

地球緑化センター

「緑のふるさと協力隊」は、過疎化、少子化の現状の中、地域を元気にしたい地方自治体と農山村での活動や暮らしに関心をもつ若者をつなげるプログラムである。農業をやりたい人の希望が多く、また社会人は将来のために田舎暮らしをしたいとのことである。活動終了後、約4割の人がその地域に定住を選択することは、地域の方々とのコミュニケーションが構築され密接な関係を維持していることが伺える。農林業、行政、観光、福祉など様々な分野で地域の活性化に一翼を担っていることを強く感じた。

福井県アンテナショップ(銀座)

銀座という、好立地にオープンした「ふくい食の國 291」は、1 階は福井の味わいを凝縮した、特産品や名産品、地酒、地下 1 階は福井の伝統工芸品、イートインスペースがあり、平日ではあるがたくさんのお客さんで賑わっていた。売れ筋では、羽二重餅、油揚げ、地酒、などである。生鮮食品の品揃えが少ないように感じたので、福井の海産物、農産物にも特化した魅力あるショップを期待したい。併せて、坂井市の戸越銀座との連携も大いに期待したい。

福井県アンテナショップ(青山)

以前の「ふくい南青山 291」とはガラッと形態が変わり、オシャレなアンテナショップとなった。飲食スペース、イベントスペース、ワークスペース数多くあり、都心にいながら福井の食や風土を体験し、首都圏のクリエイターと福井の人、企業がつながる交流拠点としての役割を担っており、坂井市においても大いに活用し、新しいモノ、コトを生み出すことを期待したい。

戸越銀座 坂井市アンテナショップ

下町情緒が残る戸越銀座商店街にリニューアルオープンしたアンテナショップは、以前より2.4倍の広さで、イートインコーナーも新設され地元の食を味わうことができことは魅力である。また、坂井市の魅力ある新鮮な農海産物を提供できるよう物流面の対応を今後検討する必要がある。首都圏に居住する坂井市出身の方々の交流拠点として、さらに首都圏での情報発信拠点となることを大いに期待したい。

会 派 内 供 覧